

別当川水系河川整備基本方針

平成 11 年 10 月

香 川 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
2. 河川の整備の基本となるべき事項	3
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	3
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	3
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項	4
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項	4

(参考図) 流域図 S = 1/25,000

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

別当川は、その源を香川県小豆郡内海町の神懸山（標高671m）に発し、山間部を南流し、途中、内海町神懸通、草壁本町を貫流し、瀬戸内海の内海湾に注ぐ二級河川である。

その流域は内海町に属し、流域面積約8.8km²、流路延長約4.0kmで内海町の約14%を占める。流域の約83%は山地で構成されており、別当川下流部は、宅地化が進んでいる。

気候は、温暖な瀬戸内式気候に属し、梅雨期や台風期に降雨が集中するという特徴をもっている。特に台風期の豪雨では、山間部が急勾配で平野部に出て急に勾配が緩くなるという地形的特徴もあいまって、下流の民家や農地で洪水被害が多く発生している。

昭和34年に内海ダムが完成したものの、昭和51年の台風17号及び豪雨により別当川下流において壊滅的な被害を受けたことから、昭和51年から昭和54年にかけて、別当川災害復旧助成工事として、ほぼ全川にわたり、河道拡幅等の改修工事を行った。しかし、既往最大規模の洪水発生時には大きな被害が予想されるため、抜本的な治水対策が必要である。

別当川の水利用は、古くから行われており、現在も農業用水として、耕地のかんがいに利用されているほか、内海町の水道用水としても利用されている。

別当川の上流域は、名勝寒霞溪があり、清冽な水と豊かな自然に包まれた麗美な景観を呈しており、ニホンジカ、ニホンザルなどが生息している。その豊かな自然環境を求めて、多くの人々が親しみ、訪れている。

別当川下流部は、護岸、護床工、落差工等の改修が進んでおり、自然状態の区間が少ないものの平瀬等には、オイカワなどの魚類が生息している。

地域住民が環境に対して関心を深めている中で、水辺を含む河川環境は、より身近なものとして再確認されるようになってきており、自然環境と景観を生かした河川の整備が重要である。

このような状況を踏まえ、本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川の現状並びに河川環境の保全を考慮し、香川県21世紀長期構想及び各種関連計画との調整を図り、重要な生命・財産を洪水から守る「治水」、安定した水利用ができる「利水」、動植物の多様な生息・生育環境を保全し、うるおいとやすらぎのある水辺環境を創出する「河川環境」の均衡を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のような整備を行っていくものとする。

治水上の保全に関しては、想定氾濫区域内の資産規模等の流域の重要度や過去の災害実績等を考慮し、既往最大の昭和51年洪水においても別当川沿川地域を洪水から防御することを目的として、治水安全度の向上を図るものとする。

水の利用に関しては、河川の流水の正常な機能を維持しつつ、諸用水の需要に対処するため、水資源開発の促進を図っていくものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、上流域の豊かな自然と麗美な景観をもつ地域特性と下流域の生活活動拠点という地域特性等を考慮して、現在の自然環境を守りつつ、自然と人間とが共生できるような整備を行う。そのため、人と河川との豊かな触れ合いの場となっている河川空間の保全やダム湖周辺的环境整備や親水施設の整備等を行う。また、動植物の生息・生育地や魚類等の産卵場所となっている河川の瀬や淵の保全を図ると共に、流水の正常な機能の維持に必要な流量の確保を行う。

安全な社会基盤を形成するため、超過洪水や水質事故等に対して危機管理対策の強化についても図っていくものとする。

さらに、地域住民に対して積極的に河川の水文情報等を提供していくとともに、住民との関係をより緊密にし、河川の総合的な保全と利用が図れるように努めていく。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、昭和51年に発生した既往最大洪水をふまえ、寒霞溪橋地点において $185\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち流域内洪水調節施設により $55\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道への配分流量を $130\text{m}^3/\text{s}$ とする。

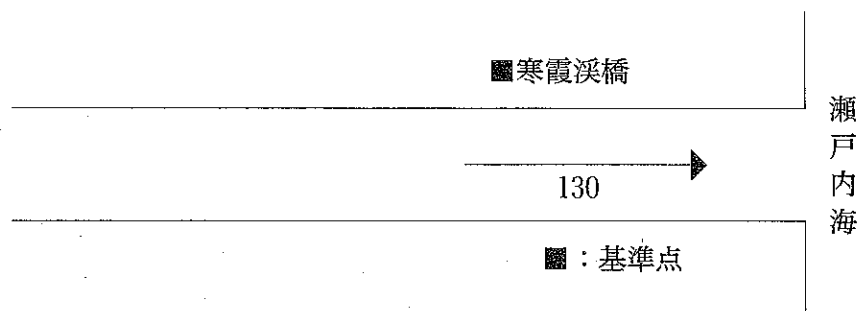
基本高水のピーク流量等一覧 (単位： m^3/s)

河川名	基準点名	基本高水のピーク流量	調節流量	河道への配分流量
別当川	寒霞溪橋	185	55	130

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

別当川における計画高水流量は基準点、寒霞溪橋地点において $130\text{m}^3/\text{s}$ とする。

別当川計画高水流量配分図 (単位： m^3/s)



- (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位一覧表

河川名	地点名	河口または合流点からの距離(km)	計画高水位 T. P. (m)	川幅 (m)
別当川	寒霞溪橋	河口から0.9	(+)10.14	13

(注) T. P. : 東京湾中等潮位

また、河川工事の実施にあたっては、河道は必要に応じて拡幅するもとともに、河道の横断形は現状の形状を踏まえ、河川環境の保全に配慮するものとする。

- (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

流水の正常な機能を維持するための必要な流量は、今後流況等の河川の状況の把握を行い、流水の占用、流水の清潔の保持、景観、動植物の生息地又は生育地の状況等の観点から調査検討を行なった上で決定し、その確保に努めるものとする。

参考図 別当川水系 流域図 S=1/25,000

